

OPAT

Oita university Primary Aldosteronism research Team



4科連携による、日本トップの原発性アルドステロン症診療と研究

内分泌・糖尿病内科

PAの診断と重症度判定
術後経過の内分泌評価
術後予後とQOLの調査

腎臓外科・泌尿器科

外科治療適応の判断
周術期評価
術後変化の対応

診断病理学

放射線科

副腎腫瘍の評価
AVSの実施
超選択的AVSの適応検討

腎臓内科

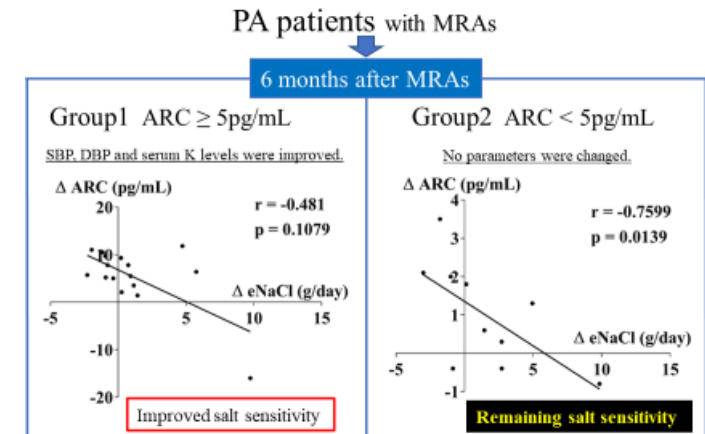
腎障害の評価
血管障害の評価
電解質評価

PA: 原発性アルドステロン症
AVS: 副腎静脈サンプリング

OPATは内分泌・糖尿病内科、腎臓外科・泌尿器科、放射線科、腎臓内科が連携し、原発性アルドステロン症を中心とした副腎疾患の質の高い研究、診療を行っている。診断病理学の先生方にもご協力いただき、研究および症例報告が行われた。その他にも多数の研究や症例報告を現在作成中である。

Importance of dietary salt restriction for patients with primary aldosteronism during treatment with mineralocorticoid receptor antagonists: The potential importance of post-treatment plasma renin levels. Hypertens Res. 2023 Jan;46(1):100-107. First author: 吉田雄一、担当学生: 藤木利佳

研究室配属の研究として開始された。原発性アルドステロン症の治療前後でレニンと塩分摂取量を比較解析した。MR拮抗薬治療後活性型レニン濃度 ≥ 5 pg/mLの患者は塩分感受性が改善しているものの、 < 5 pg/mLの患者は塩分感受性が残存しており、内服治療中であっても塩分制限が必要であることが示された。



Re-Assessment of the Oral Salt Loading Test Using a New Chemiluminescent Enzyme Immunoassay Based on a Two-Step Sandwich Method to Measure 24-Hour Urine Aldosterone Excretion. Front Endocrinol (Lausanne). 2022 Mar 21;13:859347. First author: 尾関良則

本邦では、アルドステロンの新しい測定方法である、サンドイッチ法を用いたCLEIA法が開発され、開発にあたり内分泌糖尿病内科が共同参加した。CLEIA法は従来のRIA法と異なり、迅速かつ精確である。本論文では尿中アルドステロン測定に関して、CLEIA法の優れた点を示している。

